

大阪教育大学 環境報告書2020

Osaka Kyoiku University
Environmental Report 2020



大阪教育大学
OSAKA KYOIKU UNIVERSITY

1	学長挨拶	1
2	環境方針	2
	大阪教育大学環境報告書2020の作成にあたって	
3	環境マネジメント組織	3
4	大学概要	4 ~ 7
	大阪教育大学各キャンパス	5
	団地の所在地	6
	柏原キャンパスマップ	7
5	環境配慮実施計画（2019年度の実施計画及び評価）	8
	環境配慮実施計画（2020年度の目標）	9
6	マテリアルバランス	10
7	環境負荷データ	11 ~ 13
8	環境マネジメント活動の推進	14 ~ 18
	環境教育、研究活動の取り組み	14
	学内での取り組み	15
	環境保全活動の状況	16
	地域社会への取り組み	17
	大学生協での取り組み	18
9	第三者意見	19
10	環境報告書ガイドライン対応表	20

学長挨拶

大阪教育大学は1874年の教員伝習所設立以来、140年を超える歴史の中で、教員養成を中心とした教育によって高い評価を受けてきました。とりわけ本学が重視し、注力してきたことは、広い教養を背景とする高度な専門知識の習得と、教育現場を中心とする様々な職業分野における実践力の養成です。その伝統に基づきつつ、長年にわたり、教育界や社会に貢献する人材を数多く輩出してきました。

実践型の教員養成及び教育・学習支援分野への人材養成を使命とする本学において、どの分野においても、環境マインドを持った人材を養成することは非常に重要な意義があります。本学の学生がここで学んだことを次の子供たちの世代へ伝えていく、環境マインドを継承していくという好循環が実現することを願っています。そのために、大学としては教育面や運営面において、ソフト・ハードともに、様々なプログラムを実施していきたいと考えております。

さて、皆様ご承知のとおり、令和2年1月以降、世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るっています。本学でも、国内感染者が増え始めた2月中旬以降、さまざまな対策を実施してきました。

感染症防止対策としては、手洗い・うがいの徹底、マスクの着用、換気の徹底、各所消毒、3密回避、ソーシャルディスタンスなどの一般的な対策の他、本学独自の活動基準の策定と周知徹底、入構規制・解除の段階的实施、感染防止MAPの周知、オンライン会議、在宅勤務、時差出勤など様々な取組を行っています。また、ハード面においては、網戸未設置の講義室等への設置（一部DIYで実施）、手洗い増設、トイレ改修などを進めています。

教育面における対策としては、家計急変により経済的に困難な状況に陥った学生・大学院生への経済的支援の他、オンライン授業を導入しました。特に4～5月の緊急事態宣言下において、本学初となるオンライン授業を急遽全面導入したということもあり、学生・教員とも慣れておらず、多大なご負担をかけることになりました。しかしながら、図らずも教育の情報化の一端を全ての学生・教員が経験できたことは、教育大学として、たいへん大きな一歩になったと考えています。

いま科学者の間では、地球温暖化による永久凍土の融解や森林伐採等により、未知のウイルスと遭遇する可能性が高くなってきていると言われております。世界を取り巻く地球環境問題と新たな感染症の出現は決して無関係ではないでしょう。今の時代を生きる私たちは、まずこのような問題に目を向ける必要があるのではないのでしょうか？ 出口の見えない不安な状況が続く中で、人々の関心が新型コロナウイルスへと向き、感染症対策が優先されることはやむを得ないことではありますが、そのような中でも地球環境と持続可能性の問題を置き去りにすることはできません。

地球規模の大きな問題に対して、一大学ができることは小さなことかもしれませんが、本学の学生・教職員の皆様には、ぜひともそのような問題にも関心を持っていただき、本学において環境マインドを培って頂くことを期待しています。また、ステークホルダーの皆様には、これからも本学へのご指導ご鞭撻をお願いいたします。



国立大学法人大阪教育大学長

栗林澄夫

環境方針

基本方針

大阪教育大学は、地球環境の保全が大きな問題であることを真摯に受け止め、教育研究及びあらゆる活動を通じて、地域を含めた良好なキャンパス環境の維持保全に努めます。

また、教員養成系大学として高い学識と豊かな教養をもち、環境問題に理解のある人材を育成します。このため、特に次の事項について推進して行きます。

1. 省エネルギー、廃棄物の抑制、資源の再利用、環境汚染防止等全ての環境負荷の低減に継続的に取り組みます。
2. 美しく豊かなキャンパス環境の実現に向けた緑化整備、環境美化等について、全ての大学構成員の参加によるプログラムを推進します。
3. 環境に関する法令を遵守し、さらに自主管理規程を制定し、大学の社会的責任を果たします。
4. この基本方針を達成するため、環境配慮目標を設定し、環境情報を提供するなど、全ての大学構成員により、環境保全に取り組みます。
5. この方針は、BBS（電子掲示板）をもって全構成員に周知するとともにインターネットのホームページを用いて、広く社会に開示します。

2020年9月

国立大学法人大阪教育大学
学長 栗林 澄夫

大阪教育大学環境報告書2020の作成にあたって

作成方針

「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」の施行により、2006年度より大阪教育大学では、環境報告書を作成、公表してまいりました。大阪教育大学は2004年4月に法人化し、国立大学の自律的な運営が求められる中、省エネの取り組み、古紙のリサイクル等環境負荷削減に取り組んでまいりましたが、なお一層の努力が必要であると考えております。大阪教育大学環境報告書2020は、本学の教職員、学生のみならず、本学の卒業生、OB・OG、本学への入学を希望されている方々、保護者及び近隣住民等のステークホルダーに対して、2019年度の大阪教育大学の環境についての現状を報告するものとして作成いたしました。

報告書の対象範囲
大阪教育大学柏原キャンパス

報告書の対象期間
令和元年度（2019年4月～2020年3月）
※但し一部内容については2020年7月までの内容を含む。

参照ガイドライン等

- 「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」に基づく「環境報告書の記載事項」
- 環境省「環境報告書の記載事項等の手引き」
- 環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」

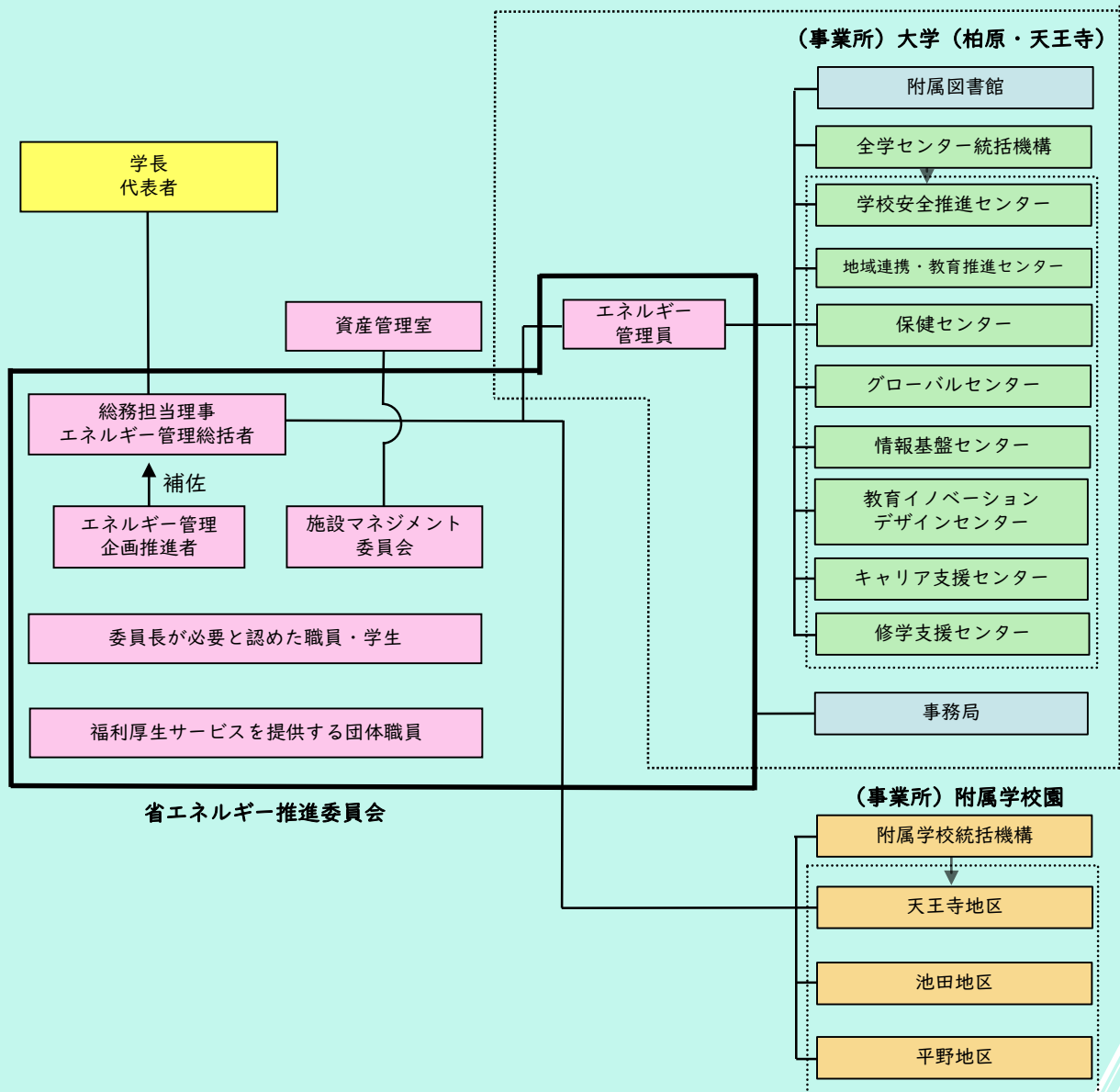
発行年月
2020年9月

次回発行予定
2021年9月

環境マネジメント組織

本学は、省エネルギー及び温室効果ガス排出抑制を着実に効果的に推進するため、学長のもと下図のようなエネルギー管理体制組織及び温室効果ガス排出抑制推進体制を整備、運用しています。省エネルギー推進委員会には、本学の学生や生協職員にも入ってもらい、オール大教大で取り組んでいます。

大阪教育大学エネルギー管理組織及び温室効果ガス排出抑制推進体制

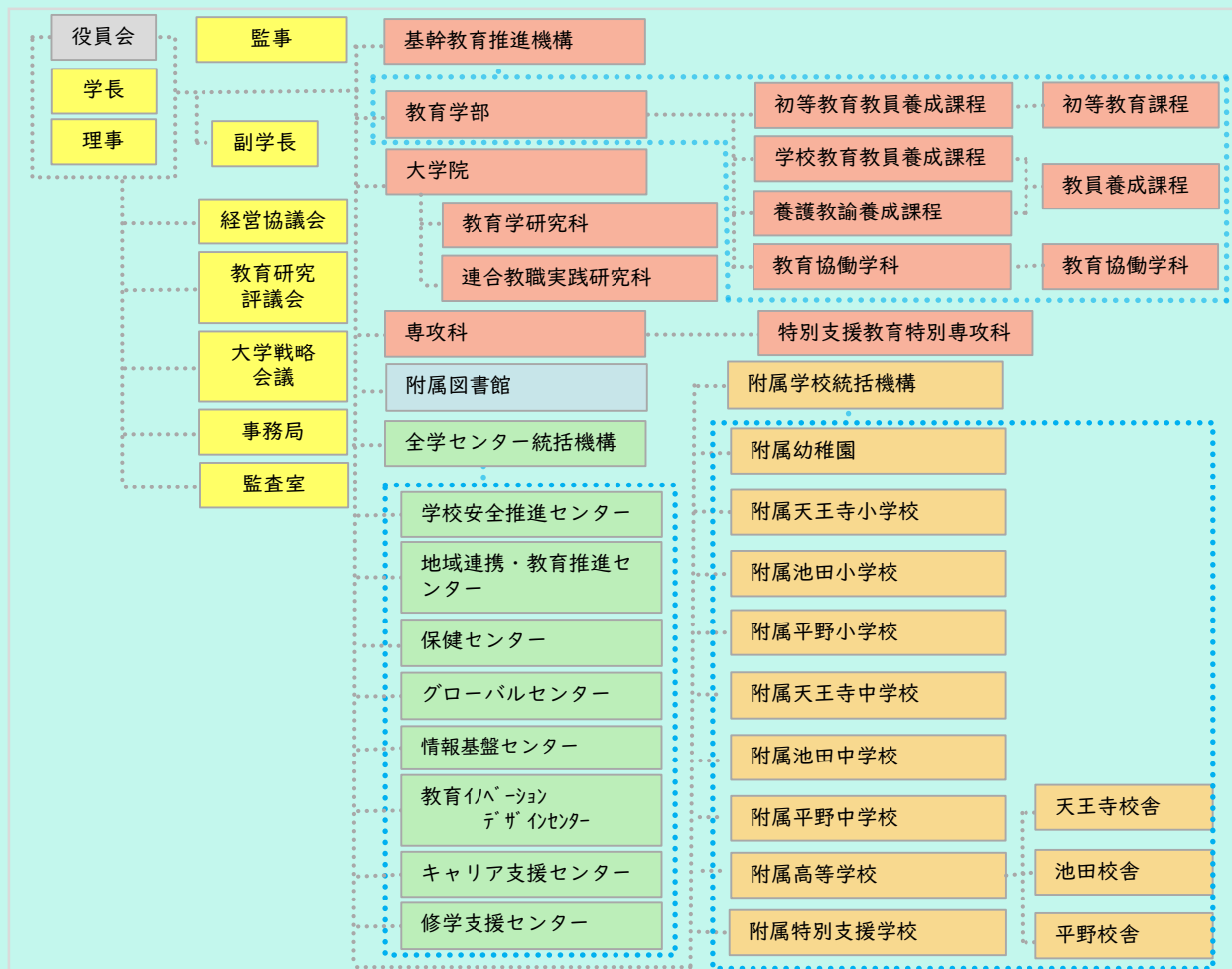


大学概要

大阪教育大学は、1874年（明治7年）5月の教員伝習所設置以来、140年を超える歴史と伝統を有する我が国多数の教育大学です。

現在の大阪教育大学は、大阪府柏原市の金剛生駒紀泉国定公園内に約67万㎡のメインキャンパスを配置し、教員養成教育と教養教育を通じて有為な人材を輩出する一方、国際都市として交通アクセスはもとより情報・産業の中核機能を有する大阪市内に天王寺キャンパスを擁しています。さらに大阪市天王寺区、平野区及び大阪府池田市の3地区に初等・中等教育並びに特別支援教育に対応した11の附属学校園を設置し、総合的な教育系大学をめざしています。

1. 組織



2. 職員数 (令和2年5月現在)

学長	1	教授	149
理事	5	准教授	88
監事	2	講師	20
合計	8	助教	2
		附属学校教員	266
		事務系職員	175

3. 学生数 外国人留学生は内数で記入 (令和2年5月現在)

■教育学部		第二部小学校教員養成	
教員養成課程・教養学科・教育協働学科		1年次入学	45
教員養成課程	2,372	3年次編入学	45
教養学科	79	合計	90
教育協働学科	1,409		
合計	3,860		
■大学院			
教育学研究科	157		
連合教職実践研究科	218		
特別支援教育特別専攻科	24		

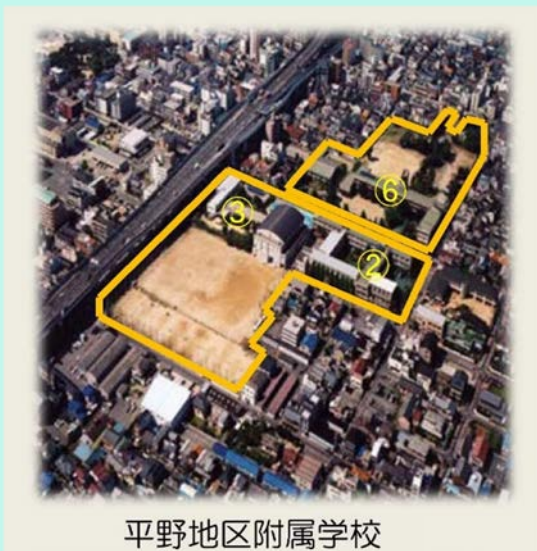
大阪教育大学各キャンパス



柏原キャンパス



天王寺キャンパス
(天王寺中学高等学校)
(天王寺小学校)



平野地区附属学校
(②平野中学高等学校③幼稚園
④平野小学校)
(特別支援学校)



池田地区附属学校
(④池田小学校⑤池田中学高等学校)

団地の所在地

柏原地区

1 柏原キャンパス

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

天王寺地区

2 天王寺キャンパス

大阪市天王寺区南河堀町4-88
 附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎
 大阪市天王寺区南河堀町4-88

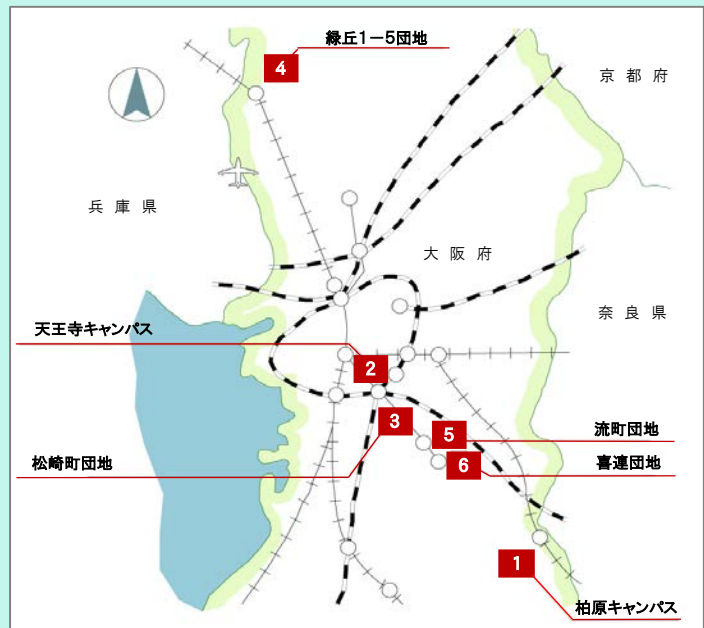
3 松崎町団地

附属天王寺小学校
 大阪市阿倍野区松崎町1-2-45

池田地区

4 緑丘1-5団地

附属池田小学校	池田市緑丘1-5-2
附属池田中学校	池田市緑丘1-5-1
附属高等学校池田校舎	池田市緑丘1-5-1
学校安全推進センター	



平野地区

5 流町団地

附属幼稚園	大阪市平野区流町2-1-79
附属平野小学校	大阪市平野区流町1-6-41
附属平野中学校	大阪市平野区流町2-1-24
附属高等学校平野校舎	大阪市平野区流町2-1-24

6 喜連団地

附属特別支援学校	大阪市平野区喜連4-8-71
----------	----------------

◆ キャンパスの特徴

大阪教育大学には柏原キャンパスの他、天王寺キャンパス及び11の附属学校園が設置されています。大阪市内の天王寺地区及び平野地区、大阪府北部の池田地区に分かれて置かれ、いずれも大学との連携のもと、教育研究・教育実践・教育実習の場として重要な役割を果たすとともに、それぞれ地区ごとに連絡進学をはじめさまざまな相互連携をとり、下記のような特徴を持っています。

- **柏原キャンパス**
平成元年より天王寺、平野、池田より統合移転し、大学の本部を置くキャンパスです。
- **天王寺地区**
教育学部初等教育教員養成課程（夜間コース）、大学院教育学研究科（健康科学専攻）と附属天王寺小学校、附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎を有するキャンパスで「基礎・基本の確かな育成」「中高一貫教育の長い歴史」を目標にしています。
- **池田地区**
附属池田小学校、附属池田中学校・附属高等学校池田校舎を有するキャンパスで「生きる力の育成・国際教育の基盤作り」「国際教育・国際理解教育と異文化交流」を目標にしています。
- **平野地区**
附属幼稚園、附属平野小学校、附属平野中学校・附属高等学校平野校舎、附属特別支援学校を有するキャンパスで「相互連携した教育・研究」「5校園構想への取組みと異校種交流学習」を目標にしています。

柏原キャンパスマップ



1 共通講義棟 (A棟)
大小の講義室、実験教室、情報処理実習室、CALL (コンピュータ支援語学学習) 教室、ロッカールームの他に、外国語学習支援ルームやICT教育支援ルームがあります。



2 教育協働学科棟 (B棟)
主に教育協働学科の講義室、実習室、研究室などがあります。憩いの場である「レモンルーム」や壁一面のホワイトボードスペース「ガリレオボード」もあります。



3 教員養成課程棟 (C棟)
主に教員養成課程の講義室、実習室、研究室などがあります。入試課はC1棟1階にあります。憩いの場である「メロンルーム」や障がい学生修学支援ルームもあります。



4 附属図書館 (D棟)
約90万冊の資料が利用できる閲覧室やアクティブラーニングが可能なまなびのひろば・グループ学習室を設置しています。院生スタッフによる学習サポートも行っています。



5 情報処理センター (E棟)
情報化の推進と情報システムの円滑な運用に、教育研究の発展に寄与することを目的としています。ネットワーク実習室、マルチメディア実習室、オープンLANスペース等があります。



6 美術棟 (F棟)
絵画室、デザイン室、書道室、講義室、研究室などがあります。



7 工房棟 (G棟)
彫刻室、金工室、立体室、木工室、窯工室、研究室などがあります。



8 体育・スポーツ棟 (H棟)
実験実習室、講義室、セミナー室、研究室などがあります。



9 音楽棟 (K棟)
リハーサルホール、実習室、練習室、講義室、研究室などがあります。



10 大学会館 (M棟)
Dining TERRA、第二食堂、レストランFORET、喫茶 (SUN Cafe)、Shopアイリス (書籍購入) などがあり、学生の憩いの場となっています。



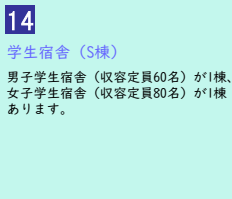
11 事務局棟 (N棟)
学務部のほか、管理部、学術部などがあります。



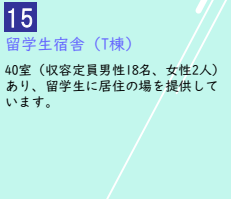
12 体育館 (P棟)
大メインアリーナ、サブアリーナ、器械運動場、第一武道場、第二武道場、ダンスルーム、トレーニングルーム等があります。



13 課外活動共用施設 (R棟)
体育系共用室、文化系共用室、合宿室などがあり、課外活動の拠点になっています。



14 学生宿舎 (S棟)
男子学生宿舎 (収容定員60名) が1棟、女子学生宿舎 (収容定員80名) が1棟あります。



15 留学生宿舎 (T棟)
40室 (収容定員男性18名、女性2人) あり、留学生に居住の場を提供しています。

環境配慮実施計画 2019度の実施計画、評価

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギー・省資源の推進」「廃棄物の抑制」「環境汚染防止」「環境教育等の充実」「地域貢献」「喫煙対策」「学内美化」の項目を実施計画とし、進めていきます。

省エネルギー・省資源の推進 (自己評価の● は計画達成、▲は一部達成、×は未達成を示します。)

項目	実施計画	自己評価
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	<ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を関係法令等に従い削減する。 ■旧フロンガスを使用する機器、老朽化した空調機器を更新する際は、高効率機器の採用を推進する。 ■フロン法に基づき、点検を行い、空調の劣化を未然に防ぐ。 ■教室等の照明器具の更新を行う際は、LED化、高効率器具等への更新し、省エネに配慮した機器の導入を推進する。 ■掲示物等で省エネの啓発を行う。 ■構成員へ、省エネや空調簡易点検の協力依頼を行う。 	●
水使用量の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■掲示物等で節水の啓発を行う。 ■トイレ等の改修を行う際は、節水器具の導入を推進する。 	●

廃棄物の抑制

一般廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> ■分別回収の徹底を強化する。 ■大学生協のランチボックス等をリサイクルする。 ■掲示によるマナー啓発活動の展開をする。 	●
用紙使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 ■学内連絡や会議用資料の説明保存等を紙から電子記録媒体にする。 	●

環境汚染防止

実験廃棄物等の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。 	●
実験廃棄物の廃棄	<ul style="list-style-type: none"> ■大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、廃棄処分する。 	●
実験用劇物等の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 ■大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 ■受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 ■受払簿は使用する毎に記載する。 	●

環境教育等の充実

環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■教材園での栽培を通して、自然環境の大切さを学ばせる。 	●
環境マインドの醸成	<ul style="list-style-type: none"> ■大教大ecoウィークを行い、環境マインドの醸成を図る。 	●

地域貢献

森林体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ■柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。 	●
グリーンアドベンチャ(社団法人青少年交友協会)	<ul style="list-style-type: none"> ■キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを廻る野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。 	●
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■星空を観察するという身近な方法で大気汚染を実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観望会」の実施。 ■幼稚園の遠足及び国際フェスティバル等の場所を提供する。 	●

学内美化

雑草の刈り取りとゴミの一斉収集	<ul style="list-style-type: none"> ■教職員と学生に道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。 	●
植栽の剪定	<ul style="list-style-type: none"> ■期日を決め定期的に剪定や草刈の実施をする。 	●

環境配慮実施計画 2020年度の目標

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギー・省資源の推進」「廃棄物の抑制」「環境汚染防止」「環境教育等の充実」「地域貢献」「喫煙対策」「学内美化」の項目を実施計画とし、進めていきます。

省エネルギー・省資源の推進

項目	実施計画
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	<ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を関係法令等に従い削減する。 ■旧フロンガスを使用する機器、老朽化した空調機器を更新する際は、高効率機器の採用を推進する。 ■フロン法に基づき、点検を行い、空調の劣化を未然に防ぐ。 ■教室等の照明器具の更新を行う際は、LED化、高効率器具等への更新し、省エネに配慮した機器の導入を推進する。 ■掲示物等で省エネの啓発を行う。 ■ecoキャラバンを実施し、構成員へ、省エネや空調簡易点検の協力依頼を行う。
水使用量の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■掲示物等で節水の啓発を行う。 ■トイレ等の改修を行う際は、節水器具の導入を推進する。

廃棄物の抑制

一般廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> ■分別回収の徹底を強化する。 ■大学生協のランチボックス等をリサイクルする。また、プラスチックゴミは、削減するよう取り組む。 ■掲示によるマナー啓発活動の展開をする。 ■最近の海洋汚染を考慮して、プラスチック製品を脱プラスチック製品への使用に切り替えるよう努める。
用紙使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 ■学内連絡や会議用資料の説明保存等を紙から電子記録媒体にする。

環境汚染防止

実験廃棄物等の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。
実験廃棄物の廃棄	<ul style="list-style-type: none"> ■大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、廃棄処分する。
実験用劇物等の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 ■大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 ■受払簿は保管倉庫内と保管庫内に保管する。 ■受払簿は使用する毎に記載する。

環境教育等の充実

環境マインドの醸成	<ul style="list-style-type: none"> ■キャンパスクリーン等の企画を含む大教大ecoウィークを行い、自分達を取り巻く環境を自分達の手で綺麗にすることにより、環境マインドの醸成を図る。
-----------	--

地域貢献

森林体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ■柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。
グリーンアドベンチャ (社団法人青少年交友協会)	<ul style="list-style-type: none"> ■キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを廻る野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■星空を観察するという身近な方法で大気汚染を実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」の実施 ■幼稚園の遠足及び国際フェスティバル等の場所を提供する。

学内美化

雑草の刈り取りと ゴミの一斉収集	<ul style="list-style-type: none"> ■キャンパスクリーン週間を設け、教職員等による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。また、この週間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。
植栽の剪定	<ul style="list-style-type: none"> ■期日を決め定期的に剪定や草刈の実施をする。

マテリアルバランス

マテリアルバランスとは、大学の活動に伴う環境負荷の全体像で、大学の活動のために投入する資源等をINPUT、大学の活動結果排出する環境負荷をOUTPUTとして表したもので、2019年度の大阪教育大学柏原キャンパスのマテリアルバランスは下記の通りです。

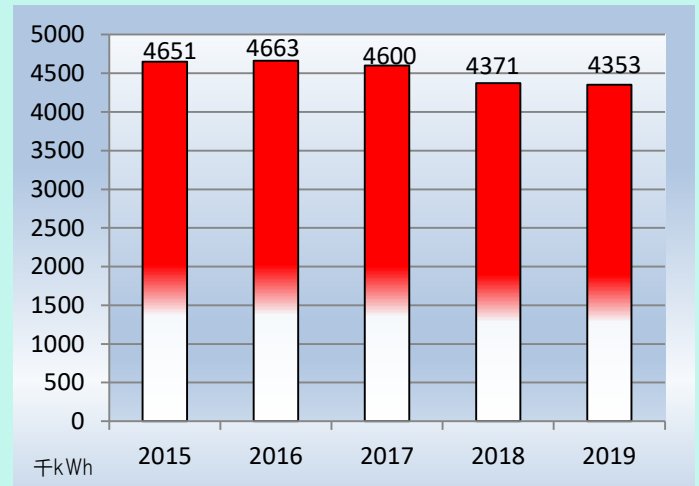


環境負荷データ

電力

- 電力使用量削減のため全学的な省エネ活動を推進しています。
- 2019年度は、2016年度より進めている空調設備の更新による高効率化を行うと共に、年間を通しての省エネ活動として、従来より実施している電力の平準化や節電等を実施したため、2018年度に比べ約1%の使用量削減となりました。

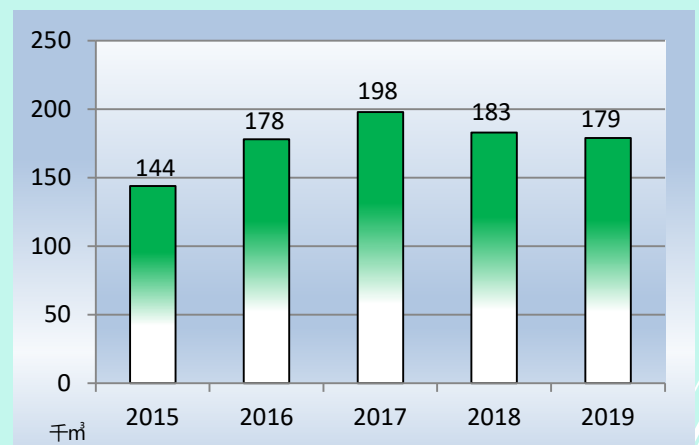
※柏原キャンパスのデータ



都市ガス

- ガス使用量削減についても全学的な省エネ活動を推進しています。
- 2019年度は、2016年度より実施している空調設備の更新による高効率化を行うと共に、年間を通しての省エネ活動を実施したため、2018年度に比べ約2%の使用量削減となりました。

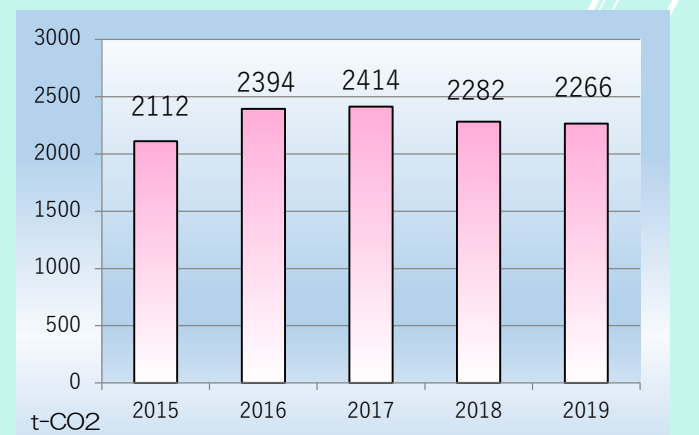
※柏原キャンパスのデータ



温室効果ガス

- 温室効果ガス排出量削減に努めています。
- 2019年度は、空調設備の更新による高効率化を行うと共に、年間を通しての省エネ活動として、電力の平準化や節電等を実施したため、2018年度と比べ約1%の排出量削減となりました。

※柏原キャンパスのデータ
 CO2実排出量の係数は、2010年度～2015年度の平均値としています。

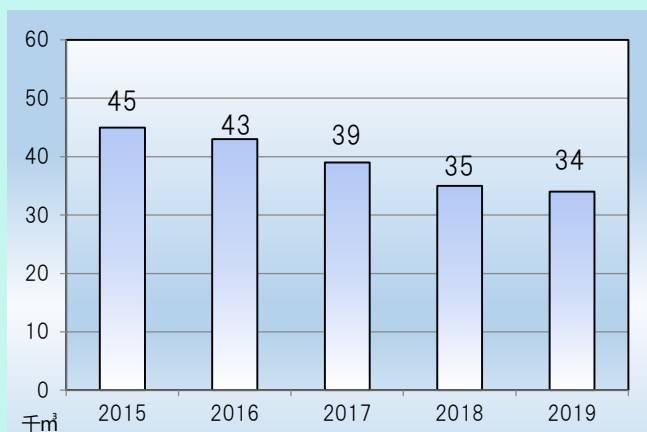


環境負荷データ

上水

- 節水対策により水の使用量削減に努めています。
- 2019年度は、2014年度及び2015年度に行ったトイレ改修により手洗いの蛇口が節水型自動水栓となり、水道使用量が削減されています。
2019年度は2018年度に比べ約3%の使用量削減となりました。

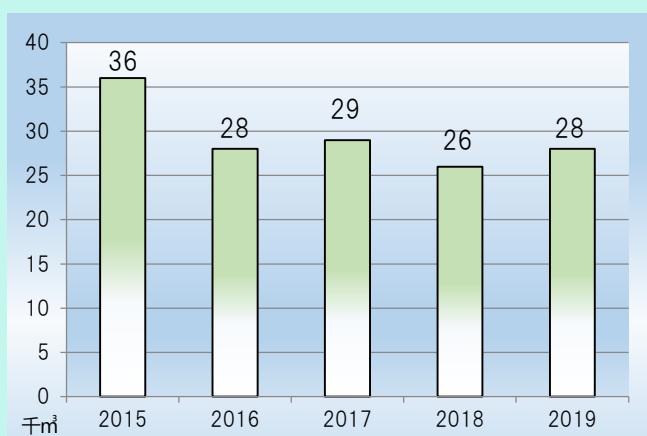
※柏原キャンパスのデータ



中水

- 中水は排水を再生処理してキャンパス内で再循環利用しています。
- 2019年度は、事務局棟での使用量が増加しました。
2019年度は2018年度に比べ約7%の使用量増加となりました。

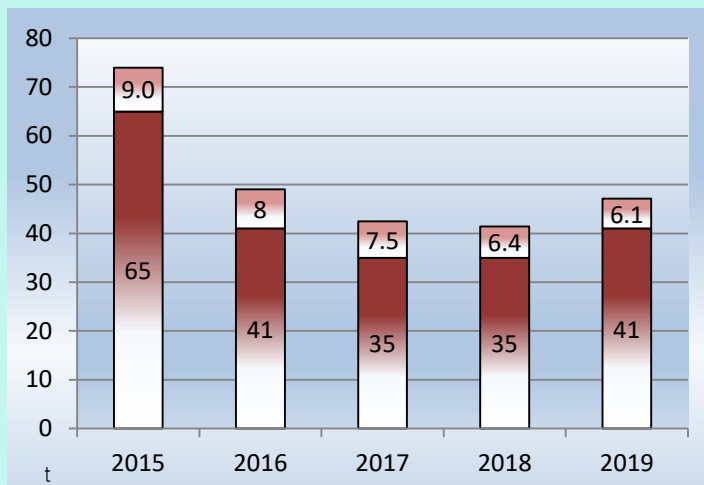
※柏原キャンパスのデータ



トイレットペーパー

- トイレットペーパーについては、便所改修に伴い洗浄便座を設置した効果が現れ、使用量の削減が見られます。
コピー用紙については、学内グループウェアにより通知文書の電子化や電子会議の浸透によりペーパーレス化が進みました。
その結果、2018年度と比べ約5%の使用量削減となりました。

※柏原キャンパスのデータ



コピー用紙

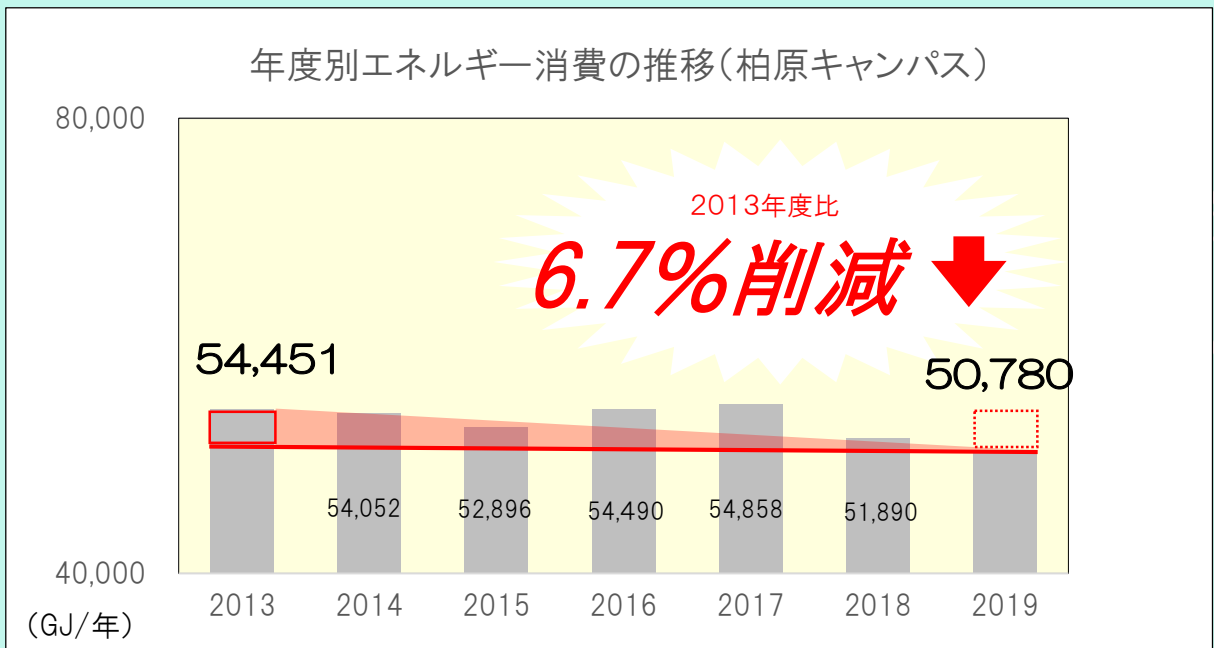
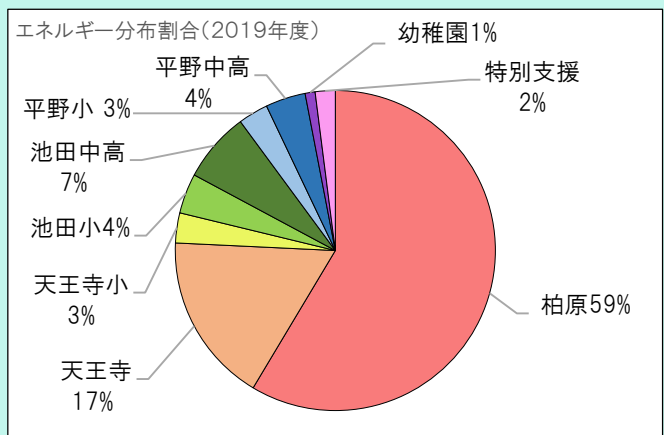
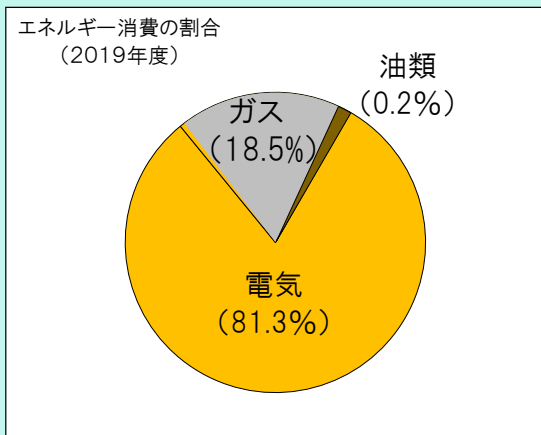
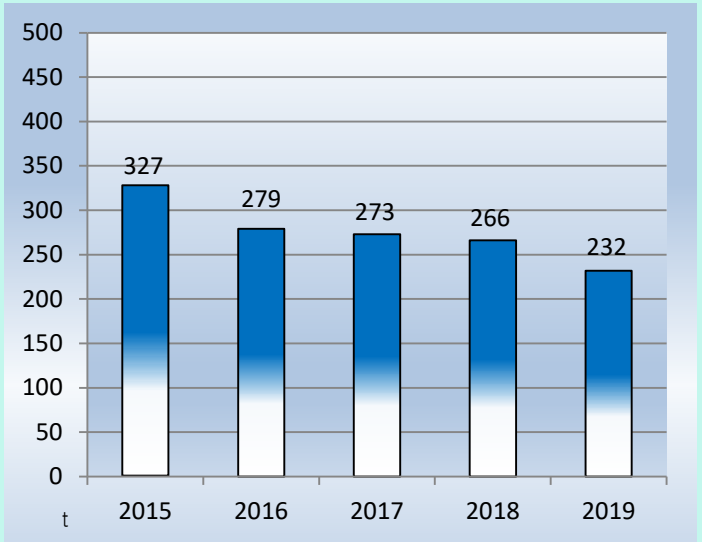
- コピー用紙については、単価変動に対応するべく備蓄量を増加させたため2019年度は2018年度に比べ約17%の購入量の増加となりましたが、備蓄量を除いた実際の消費量については前年度と同量と想定されます。

※柏原キャンパスのデータ

環境負荷データ

廃棄物排出量

- 一般廃棄物、産業廃棄物の削減に努め適切な処理を行っています。一般廃棄物については、可燃物、缶類、ビン類等に分別し廃棄処分を行っています。産業廃棄物については、種類毎に回収し専門業者に処理の委託を行っています。(マニフェストの義務化)
また、特別管理産業廃棄物については、種類毎に回収管理し、専門業者に廃棄の委託を行っています。(マニフェストの義務化)
- 廃棄物については、削減に努めることにより徐々に量を減じることができ、2018年度から2019年度は約13%の削減結果となりました。
廃棄物は全て「廃棄物処理法」に基づき適正な処理を行っています。
※産業廃棄物は主に金属くず、木くず、廃プラスチック等を破砕した体積で、重量に換算しています。



環境マネジメント活動の推進

● 環境教育、研究活動の取り組み

変わりゆく北極について考えるボードゲームの体験演習を実施

北極を取り巻く環境の変化について考える教育向けボードゲーム「The Arctic」の体験演習を、11月27日（水）に柏原キャンパスで開催しました。社会科教育講座の井上岳彦特任講師による企画で、ゲームの開発に携わった国立民族学博物館特任助教・人文知コミュニケーションの大石侑香氏が講師を務めました。

このゲームは、国立極地研究所、海洋研究開発機構、北海道大学などが構成する北極域研究推進プロジェクト（ArCS）と、日本科学未来館が共同開発したものです。プレイヤーは研究者、先住民、開発業者、外交官などになり、それぞれに課された目標の達成をめざします。地球温暖化により北極の海氷が減少するにつれ、トナカイの大量死や海洋汚染事故、グローバル資本の進出など、さまざまなイベントが発生します。それらに対処するには事前に調査研究や整備事業を行う必要があります。限られた予算でどの事業を実施するか、プレイヤー同士の話し合いが重要となります。

演習では、参加者15人が4人から6人のグループに分かれて実際にゲームを体験。「世界遺産登録するとどんな効果が考えられるのか？」と話し合ったり、文化人類学者役の人が研究を採用してもらうために開発業者役の人を説得したりと、どのグループでも活発なコミュニケーションが展開されました。ゲームが終わると自主的に反省会を始め、「運もあるから仕方ないけど、目標数値の下がるイベントが連続したのは痛かった」「無駄になった事業があったから、最初から協調して決めていかないと」などとプレーを振り返っていました。

井上特任講師は演習について、「北極域環境の複雑な事情について考える良い機会になりました。学生たちも、実際の教育現場でこのゲームをどう利用するか考えながらプレーしてくれたようです」と語りました。大石氏は「大学生を対象に実施するのは初めてで不安もありましたが、皆すぐにゲームの構造を理解し、攻略とうまく結びつけて北極の複雑な現状を学び、未来のために考えねばならないことについて話し合ってくれました」と感心し、「『The Arctic』を教育に関心のある学生さんたちに体験してもらったのは、このゲームを使った『持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）』の可能性を考えてほしいと思ったからです。ゲームは今後貸し出しを行う予定なので、主体的に考える力やコミュニケーション力を養う教材として、学校教育や企業研修にぜひ活用してほしい」と期待を寄せました。



環境マネジメント活動の推進

● 学内での取り組み

コロナ禍も柔軟発想で対応 学生食堂に手製網戸設置

柏原キャンパス学生会館の学生食堂の窓に、職員による手製の網戸を設置しました。新型コロナウイルス対策として、現在、講義室等への換気のための網戸は、請負契約による設置を順次進めています。

今回、実技・実験・実習系科目の一部授業及び卒業研究・修士論文指導についての対面実施開始に合わせて営業再開し、学生たちが使用する大学食堂では速やかに整備する必要がありました。また、食堂同様、その他の学内施設においても機械換気が基本となる場所への将来的な設置計画などもあり、様々な条件を総合的に検討した結果、手製で網戸を設置することにしました。特に1Fに位置するこの食堂は、国定公園内に立地する本学の場合、虫の侵入が特に懸念されるところでした。腕に覚えがある施設課職員による作業は短時間で完了、その上結果として安価に設置することにもなりました。引き続き営業再開を予定している2階の食堂についても同様に設置予定です。また、施設課では作成過程の写真を撮影し、教職員等に配布するための作り方マニュアルも作成しました。

完成後、食堂を運営する大阪教育大学生協同組合の十川（そがわ）仁宣専務理事は、「3密を避ける為、窓を開けて換気するのに、生協食堂は網戸がなく、衛生面で虫や鳥類の進入をどう防ぐか悩んでいました。施設課に相談したところ、即対応頂けたので大変助かっています。網戸がついたことで、虫の侵入の危惧せず窓を開けて換気ができ、利用者の安全に繋がっています。ありがとうございました」と感謝を述べました。

施設課の岩田幸三課長は、「今回のコロナ禍においては様々な対応に大学として大きな支出が必要となりますが、学生たちの安全のため必要なところにきちんと予算を投入するために、工夫できることの一例だと考えます。施設課職員によるDIYは珍しいかもしれませんが、今後も柔軟な発想で新しい取組に挑戦していきたいと思っております」と話しました。



環境マネジメント活動の推進

● 環境保全活動の状況

附属平小がクラウドファンディング活用で構内の池復活 ほたる鑑賞会実施

本学附属平野小学校が、ほたるの鑑賞会を開催しました。7月9日（木）、10日（金）、13日（月）、14日（火）の4日間、整備された新しい「ほたる池」では、ほたるの優しい光が招待客らを迎えました。

文部科学省研究開発学校として、新教科「未来そうぞう科」の研究開発を実施している同小学校では、この教科の一環で、校内にある手つかずの池を復活させてほたるの棲める環境に戻す取り組みを1年以上前から進めてきました。

プロジェクト名は、「ほたる池復活プロジェクト～121期生の挑戦～」。

現在6年生の児童らは、5年生のときから、池を整備する作業にあたるほか、ほたるが実際に棲む環境を見学に行ったり、資料館の方に専門的なアドバイスを頂いたりと精力的に活動してきました。

その後、池の水を循環させる手製のろ過機などを作るための道具や材料、生き物の購入など、資金面の壁が立ちはだかり、これを解決するためにクラウドファンディングでの資金を集めに挑戦。このプロジェクトを支えてきた6年生担当の教員のうちの一人で今回、このクラウドファンディングのプロジェクトリーダーを務めた東亮多教諭は、「3月から4月にかけて実施しましたが、寄附額は目標額を大きく上回り達成しました。コロナ禍の休校で大好きな学校へ通うことが出来ず、またこのプロジェクトの活動の停滞も心配していた児童たちにとって、クラウドファンディングは、インターネット上で自分たちの目標や活動を広く社会に発信し、それが広く社会から共感やサポートを受けるといった新たな経験をするとともに大きな希望となりました」と振り返りました。

今回の鑑賞会はクラウドファンディングの寄附者返礼の一つとして実施したものです。児童らはこれまでの活動記録の掲示や、マスコットキャラクターをあしらった手作りのお土産を用意して備え、鑑賞会の期間中は運営側として受付や案内などの役割にあたりました。1、2日目担当の児童が3、4日目児童へ引き継ぎやアドバイスをを行う姿もみられました。

東教諭は、「児童たちは、翌日の引継ぎをきちんと行うなど、より良い鑑賞会になるように頑張りました。天候も心配しましたがどの日にもほたるの光を見ることが出来、子どもたちの努力の成果が報われた結果となりました。児童らは鑑賞会の後もほたるがたまごを産み、幼虫が孵化し、生命が続いていくことに着目しています。ですから、プロジェクトのゴールを鑑賞会ではなく、『この取り組みが続いていくこと』としました。そうなるために、これからどのようなことが必要か、一緒に考え学習を進めていきたいと思っております」と感想と抱負を語りました。



環境マネジメント活動の推進

● 地域社会への取り組み

森林管理局イベントにて本学学生らがワークショップ

本学小中教育専攻と中等教育専攻の理科教育コースと美術教育コースの学生、教員らが、10月27日（日）に近畿中国森林管理局（大阪・桜ノ宮）での「水都おおさか森林の市2019」でワークショップを行いました。本学公式キャラクター「やまお」も登場し、来場者らと記念撮影を行い、大学と豊かな自然に囲まれた柏原キャンパスをPRしました。

「森林の市」は、森林の恵みや木に触れることで、森林と人とのつながりを実感し、豊かな森林資源を次世代に引き継いでいくことを目指したイベントで、「やまお」がこのイメージに合うとして参加依頼を受けたことがきっかけで、地域貢献と教育活動の紹介を目的に本学もワークショップブースを毎年出展しています。当日は様々な団体による食品や工芸品の販売、工作体験などのブースが50以上並び、およそ2万5000人（主催者集計）が来場しました。

理科教育コースの学生らは「森林の虫たちとのふれあい体験」と題したワークショップを開催。柏原キャンパスで採集したモリチャバネゴキブリ、ヤマトシロアリ、ワラジムシを紹介し、様々な虫が、山や森の中で枯れ木や落ち葉などを分解するという大切な役割を担っていることを説明しました。また、子どもたちと実体顕微鏡で観察したり、虫の習性を利用した簡単な実験をしたりしました。

美術教育コースの学生らは、「くねくねさん」と作ろう！と題して、木でできた玉やブロックと針金で、くるくる回る創作玩具を作るワークショップを開催。自分たちでカラフルに色付けし、最後に顔にペンで表情をつけて仕上げる「くねくねさん」作りは子どもから大人まで大盛況で、準備した120セットは満足気な笑顔とともにすべて制作終了となりました。

参加者からは、「子どもたちが真剣に虫眼鏡で観察するなど楽しんでいる様子が見られてうれしい」「木や虫と接して自然とより親しむよいきっかけになれば」などの感想が聞かれ、なかには「やまおに会うために来ました」という声も聞かれました。

ワークショップを実施した美術教育コース2回生の平松 望さんは、「ワークショップを通して、たくさんのおもちゃの様子を見ることができました。それぞれに個人差、作業の進度も異なりますが、子どもたち一人ひとりにあった対応を心がけ、楽しく気持ちよくものづくりをしてもらえたと思います。一人ひとり違う作品が出来上がるのを見ることができて私も楽しかったです」と語りました。理科教育講座・生田享介准教授は、「今年も多くの方々にご来場いただき、展示ブースは大盛況でした。学生たちが頑張ってくれて、無事終わることができました」と述べました。



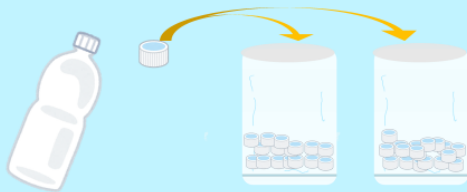
環境マネジメント活動の推進

大学生協での取り組み

生協では、テイクアウトショップで販売する弁当の容器として、リサイクル可能な「リ・リパック」を使用し、ボックスを設置して食べ終わった容器を回収しています。例年はリ・リパックに興味を持ってもらえるような企画を行っていたのですが、2019年度は新たな挑戦として、ペットボトルキャップに注目し、「リ・リパック以外でも環境について考えてもらえるような機会を提供し、より環境保護を身近に感じてもらう」を目的として、ペットボトルキャップを回収する企画を行いました。また、回収にご協力いただいた方には景品をプレゼントすることで、少しでも楽しみながら、継続的に参加してもらえるように工夫しました。さらに、集めたキャップはワクチンに変えられ、環境保護だけでなく世界の子どもたちの支援にもつなげることができました。この企画は学生だけでなく、職員の方々にも参加していただき、好評だったことから、企画後もリ・リパック回収ボックスの横にキャップ回収カゴを取り付けることで、継続的にキャップ回収を行えるようにし、昨年度以上に環境保護を身近に感じてもらうようにしました。この他にもTwitterで情報を発信するなど、少しでも多くの方に環境について考えてもらえるように日々努めています。



キャップで世界を救うのだ！
～投票でポイント5倍ゲットだぜ～



ペットボトルキャップを好きな商品のところに投票してね！

キャップを持ってきたらスタンプGET！
スタンプ集めて豪華景品GET☆☆
一部景品↓↓↓

モバイルバッテリー・DicI 500円分
手持ち扇風機・水筒 などなど…

生協学生委員会



第三者意見

第三者との意見交換会

2020年9月、本学と保全業務を実施して頂いている企業の方々に本学の「環境報告書2020」に対するご意見を伺いました。

当環境報告書に反映できる点は改善し、その他の意見は来年度の環境報告書の作成の参考にさせていただきます。

主な意見	回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 3、7、9～17ページ ・文字が一部、絵に重なっています。レイアウトを修正した方が良いと思います。また、一部に誤記があります。 	修正しました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 4ページ ・「3. 学生数」のレイアウトについて、「2. 職員数」と合わせた方が良いと思います。 	レイアウトを変更しました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 5ページ ・各キャンパスの写真の大きさが異なります。統一した方が良いと思います。 	レイアウトの関係上、大学キャンパスと附属学校で写真のサイズを変えています。
<ul style="list-style-type: none"> ● 8ページ ・改行が不揃いです。統一した方が良いと思います。 	修正しました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 9ページ ・大学の目標を追記した方が良いと思います。 	大学の目標を追記しました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 11、13ページ ・西暦と和暦の両方が使用されています。統一した方が良いと思います。 	西暦に統一しました。

ご協力いただきましてありがとうございました。

環境省 「環境報告ガイドライン（2018年版）」との対応一覧表

環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」	大阪教育大学 環境報告書2020
環境報告の基本的事項	—
1. 報告にあたっての基本的要件	—
（1）対象組織の範囲・対象期間	大阪教育大学環境報告書2020の作成にあたって
（2）対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	大阪教育大学環境報告書2020の作成にあたって
（3）報告方針	大阪教育大学環境報告書2020の作成にあたって
（4）公表媒体の方針等	裏表紙
2. 経営責任者の緒言	学長挨拶
3. 環境報告の概要	—
（1）環境配慮経営等の概要	大学概要
（2）K P I の時系列一覧	環境マネジメント活動の推進 ・学内での取り組み
4. マテリアルバランス	マテリアルバランス
「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を表す情報・指標	—
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	—
（1）環境配慮の方針	環境方針
（2）重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	環境配慮実施計画
2. 組織体制及びガバナンスの状況	—
（1）環境配慮経営の組織体制等	環境マネジメント組織
（2）環境リスクマネジメント体制	環境マネジメント組織
（3）環境に関する規制等の遵守状況	環境マネジメント組織
3. ステークホルダーへの対応の状況	—
（1）ステークホルダーへの対応	環境マネジメント活動の推進 ・地域社会への取り組み
（2）環境に関する社会貢献活動等	環境マネジメント活動の推進 ・地域社会への取り組み 環境マネジメント活動の推進 ・学生の取り組み
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	—
（2）グリーン購入・調達	グリーン購入法及び環境配慮契約法への対応について
（3）環境負荷低減に資する製品・サービス等	環境マネジメント活動の推進 ・環境教育・研究の取り組み ・学内での取り組み
（4）環境関連の新技术・研究開発	環境マネジメント活動の推進 ・環境教育・研究の取り組み ・学内での取り組み
（7）環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	環境マネジメント活動の推進 ・学内での取り組み
「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況」を表す情報・指標	—
1. 資源・エネルギーの投入状況	—
（1）総エネルギー投入量及びその低減対策	環境負荷データ
（2）総物質投入量及びその低減対策	環境負荷データ
（3）水資源投入量及びその低減対策	環境負荷データ
2. 資源等の循環的利用の状況（事業エリア内）	環境マネジメント活動の推進 ・学内での取り組み
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	—
（2）温室効果ガスの排出量及びその低減対策	環境負荷データ
（3）総排水量及びその低減対策	環境負荷データ
（6）廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	環境負荷データ
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	環境マネジメント活動の推進 ・環境保全活動の取り組み
「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況」を表す情報・指標	—
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	—
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	環境マネジメント活動の推進 ・環境教育・研究の取り組み
その他の記載事項等	—
1. 後発事象等	—
2. 環境情報の第三者審査等	第三者意見

編集チーム

課長	岩田幸三
課長代理	西本正信
企画係	係長 前田祥行 専門職員 八杉幸則 宮崎圭子 西川由美子
建築係	係長 大高史彦 主任 藪内君予 伴海和彦 主任 蟻塚大介
設備係	係長 谷口法敏 主任 堀内保彦 丸山辰伺

大阪教育大学は、この自然に囲まれたキャンパスの立地環境を活用し、生きた教材として、優れた環境人材の創出を目指します。本学の学生・教職員の環境への取り組みにご理解いただき、ご指導、ご支援をお願いいたします。

環境報告書ホームページ

<http://osaka-kyoiku.ac.jp/university/kikaku/houtei/index.html>



お問い合わせ先

国立大学法人 大阪教育大学 総務部施設課企画係

電話：072-978-3333

FAX：072-978-3345

MAIL：sisetuka@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

URL：http://osaka-kyoiku.ac.jp/